

特集

ニホンイヌワシの3羽孵化

飼育展示担当 佐々木祐紀 高橋広志 安永千秋

●3羽の孵化

2006年4月、大森山動物園のニホンイヌワシに3羽のヒナが誕生しました。ニホンイヌワシが3個の卵を産んで、しかも3羽とも孵(かえ)るのは国内で初めてのことです。しかし、快拳に沸いたのも束の間、3羽すべてのヒナを育てる上でいろいろな問題が出てきました。



●3羽のヒナを育てる上での問題

1 ヒナどうしのケンカ

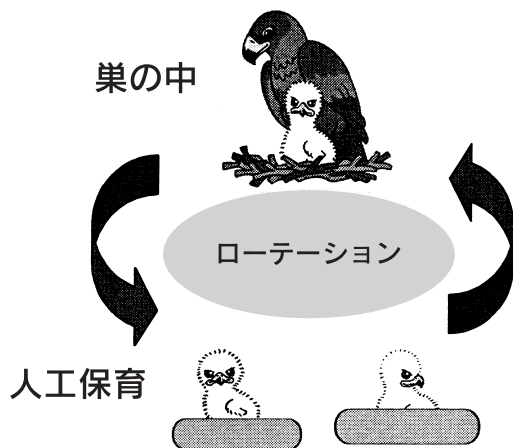
野生のニホンイヌワシは通常2個の卵を産みますが、たとえ2羽のヒナが孵ってもほとんどの場合1羽だけしか育つことができません。なぜならイヌワシのヒナは、孵った直後から死闘を繰り広げて、強いヒナだけが生き残るという習性を持っているからです。餌が乏しい野生下では、ヒナが共倒れしないために必要な自然の摂理ですが、せっかく生まれた3羽のヒナがケンカで死んでしまっは元も子もありません。

2 人工保育の弊害

ケンカに敗れたヒナを人工保育する、という方法も考えられます。しかし人の手で育てられたイヌワシは、本来の行動やコミュニケーションの方法を親から学んでいないため、大きくなって他のイヌワシと一緒にしても上手くいかない場合が多く、たとえ姿かたちは同じでもイヌワシとして受け入れられない鳥になってしまいます。

そこで、ヒナ同士のケンカを避けながら、親子の関係を失わずかつ人に馴れすぎないように3羽のヒナ全てを育てるために、特に初めの頃は力の強い方のヒナの一時的な人工保育を取り入れた“ローテーション育雛法”という方法を考案しました。

●ローテーション育雛法



●ヒナ同士のケンカを避けるため、巣には1羽のヒナだけ残し、他の2羽は別々のスペースで、人に馴れすぎないように気を付けながら一時的に人工保育します。

●ただし、どのヒナも巣を忘れることなく親鳥との関係を保ちながら育つように、数日に1度はヒナをローテーションさせ巣に戻すようにします。